

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 〈全国学力・学習状況調査〉令和6年4月18日(木)実施(対象:小6、中3) 平均正答率(%)

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
大竹市	71	63	58	52
広島県	69	64	58	52
県との差	+2	-1	±0	±0
全国	67.7	63.4	58.1	52.5
全国との差	+3.3	-0.4	-0.1	-0.5

## 2 〈全国学力・学習状況調査〉結果の分析について



### 【学力調査の結果について】

- 小学校の平均正答率は、国語で全国平均と県平均を上回っています。算数は、全国平均と県平均を下回っています。国語では、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。算数では、「球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題」、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。
- 中学校の平均正答率は、国語で全国平均を下回っていて、県平均と同じです。数学では、全国平均を下回っていて、県平均と同じです。国語では、「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題」、「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。数学では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」、「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。

### 【今後に向けて】

- 学力向上につながる授業づくりに向け、今後、特に次の3点について、取り組んでいきます。
- ① 基礎的・基本的な学習内容について、定着に課題のあった内容のつまずき等の分析を行い、当該学年だけでなく、系統的にくり返し指導を行えるように、学習計画の見直し・実践を行います。特に、算数、数学の図形領域は小・中学校で課題があるため、繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ります。
  - ② 授業において、思考力・判断力・表現力が身に付くような課題発見・解決学習を設定します。児童生徒が課題の解決に向けて、様々な思考、判断をし、それを表現する場を設定することで、思考力・判断力・表現力の向上につなげていきます。問題形式が「記述式」の問題において、正答率が低かったり、無解答率が高かったりする傾向があるため、授業で児童生徒が記述する場面を設定します。
  - ③ 授業のめあてを明確にし、何が分かったか、どんなことができるようになったか等、ていねいな振り返りを行うことで、児童生徒が「できた」「分かった」と感じ、「主体的な学び」に向かうようにしていきます。